

学校法人 滋慶学園 仙台デザイン&テクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31日)による

大項目	小項目・評価の基準	自己点検評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている 2:概ね基準を満たしている 1:基準を満たしておらず改善が必要			3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている 2:概ね基準を満たしている 1:基準を満たしておらず改善が必要	
1 教育理念・目的・目標	教育理念、目的及び目標の設定等 (教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。)	3	学校法人滋慶学園仙台デザイン&テクノロジー専門学校は、滋慶学園グループに所属し、「職業人教育を通じて社会に貢献する」をミッションとしています。また、「建学の理念」(3つの教育理念)を実践し、「4つの信頼」を得られることを軸にした考え方で学校運営を行っています。 ◆建学の理念(3つの教育理念) ①実学教育 ②人間教育 ③国際教育 ◆4つの信頼 ①学生と保護者の信頼 ②高校の信頼 ③業界の信頼 ④地域の信頼 ◆教育目標・育成人材像 建学の理念・学校設立コンセプトに基づいて、常に業界からの意見を参考にし、業界の動向を把握し変化に対応し養成目的や教科目標の見直しを図っています。 「産学連携教育システム」を実践しており、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成しています。 ◆育成人材 クリエイティブ業界とともに、創造力を持った即戦力となる人材を育成 単なる専門知識・技術を持った人材を育成するのではなく、感動を与えられる人材、業界の変化に対応できる人材を育成し、業界に喜んでもらえる人材を育成する。 「職業人教育」=「専門職業教育」+「キャリア教育」との観点より「仲間と面白い仕事を夢中でする幸せ」の獲得を目指し、そのために必要な「身構え、気構え、心構え」を育成するという基本的方向性に基づいて、 【入学前】基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期 【在学中】専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期 【卒業後】社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期と捉え展開しています。 ◆学校の特色 職業人教育を達成するために、「産学連携教育」では、企業課題・企業プロジェクト等に取り組み「キャリア教育」では、学生一人ひとりを大切に、入学前教育から卒業教育までフローで取り組んでいます。 滋慶学園グループの「建学の理念」や「4つの信頼」を踏まえた、自主的・自律的な3つのポリシーの策定 ①DP(ディプロマポリシー)・・・卒業認定・学位授与の方針 卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力の明確化 ②CP(カリキュラムポリシー)・・・教育課程編成・実施の方針 体系的で組織的な教育活動の展開のための教育課程編成、教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化 ③AP(アドミッションポリシー)・・・入学者受け入れの方針 入学者に求める学力の明確化と具体的な入学者選抜方法の明示 以上の3つのポリシーとそれに基づく教育の実績等を分かりやすく積極的に情報公開することで、産業界からの理解を得て連携を強化する。 ◆将来構想 5ヶ年毎の計画を立てており、昨年は第7期5ヵ年計画の4年目となり、年度事業計画を策定している。また、高度専門職業人の育成として、生涯教育への取組とキャリアロードマップをベースにした「キャリア教育」に取り組んでいます。 ＜第7期5ヵ年計画＞ A 革新的なテーマを設ける (新しい学科・コース、ビジネスモデル、新規事業などの設立) B 事業運営力を高める C DXに注力する D コンプライアンスを重視する E イノベーションをはかる F グローバルな視野を広める G 理念・コンセプトを再確認	◆滋慶学園グループ 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッションに掲げ、全国に6法人82校の教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、「建学の理念」(3つの教育理念)・・・「実学教育」・「人間教育」・「国際教育」と「4つ信頼」・・・「学生と保護者の信頼」・「高校の先生の信頼」・「業界の信頼」・「地域の信頼」を実践することで、教育の実現を目指しています。 ◆仙台デザイン&テクノロジー専門学校における建学の理念(3つの教育理念) 「実学教育」 業界が求める人材を業界と共に育成し送り出すことを教育コンセプトとし、業界の即戦力として活躍できる専門知識や技術を習得し、将来的なニーズに対して創造的に対応できる専門職として、業界が求める人材を育成する。 「人間教育」 学ぶことは、将来の目標実現に向けて自己変革し、自らに付加価値をつけ、専門知識や技術だけでなく、使命感を持って前向きに生きる情熱と思いやりを持った心豊かな人材を育成する。 「国際教育」 21世紀はボーダーレスの時代といわれ、ビジネス・シーンにおいては海外での活動や外国の方々とコミュニケーション、ビジネスの機会が拡がる中、外国語だけでなく他国のことを知ると同時に、自国のこと(歴史、文化、伝統)を良く知り主張もできるグローバルな視点を持った人材を育成する。 ◆仙台デザイン&テクノロジー専門学校における3つのポリシー DP(ディプロマポリシー) 創造力豊かな業界が求める即戦力となる人材を育成する ①「好きな仕事」を通じて想像力とアイデアで人に感動を与える人 ②夢に向かって自らイノベーションし成長していく人 ③業界が必要とするリーダーシップを発揮する人 CP(カリキュラムポリシー) 「建学の理念」(3つの教育理念)を実践し、「4つの信頼」を得ることを教育コンセプトとし、産学連携教育システムを通じて、業界に必要とされる即戦力を身につける ①講義、実習、イベント、研修などのすべての基本となる産学連携教育システムを通して業界が求める即戦力を身につける ②海外実学研修やインターンシップなどを通して、業界の最新動向を知り、専門知識・技術に対する関心と感性を磨く AP(アドミッションポリシー) 想像力豊かな業界が求める即戦力となる人材を育成する ①将来の夢や目標を持っている人 ②学校の教育内容や方針を十分理解している人 ③好きな仕事を通じて、人に喜びや感動を与えたい人 ④「好きな事を仕事にしたい」という気持ちを持っている人	3	・少子化、人口減少が社会問題となっている現在、専門課程694名と高等課程の37名の学生を有し、地域の活性化に大きく貢献している。 ・教育理念等が確り構築されており、学校の進む方向が細かく定められている。 ・学生の夢の実現に向けて学校長を筆頭に全力で応援している様子が伺える。 ・我が子も教育理念に共感して入学したものですから、引き続き継続とより良い改善をお願いしたいと思っています。

2 教育課程、教育の実施、学修成果	2-1教育課程の編成と授業科目 ①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること	3	◆教育課程の編成と授業科目 令和8年4月1日の学校教育法改定に対応するため、教育課程を大幅に改定しました。 教科目標達成のための教育課程は、学科の養成目的及び学年・学期の到達目標を明確にし、入学前から卒業まで体系的に編成されています。また、教育課程は、専門職業教育とキャリア教育の二本柱から成り立っており、統計性・段階性に配慮した授業科目となっています。	職業人教育＝専門職業教育＋キャリア教育と位置づけ、教育課程はこの二本柱から成り立っています。 目指す職業に就くために必要な知識やスキルを身に着ける専門教育は「実学教育」であり、専門学校における必要不可欠な教育であることはもちろんですが、それだけではなく「人間教育」を教育理念に掲げ、社会人基礎力やその仕事をするための「身構え」「気構え」「心構え」等、社会で通用する職業観・勤労観も併せて育成する「キャリア教育」にも力を入れております。	3	・教育課程は学校の目的・目標の実現に向け体系的に編成されており、系統性・段階性にも十分配慮されています。 ・教師が先頭に立って挨拶を励行している。コミュニケーション能力の向上と社会適応能力の育成にも注力している。
	2-1教育課程の編成と授業科目 ②外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を10単位以上(300時間以上)開設していること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	◆教育課程の編成と授業科目 文部科学省の「専修学校の専門課程における外国人留学生キャリア形成プログラムの認定に関する規定」において、日本社会の理解の促進に資する授業科目として、企業実習、連携先の実務家教員による授業、ビジネス日本語、日本文化、日本社会研究、、日本事情、キャリアプラン、企業・業界研究、ビジネスマナー等が示されており、令和8年3月31日付けで、「クリエイティブコミュニケーション科昼間Ⅰ部」が文部科学省より認定されています。	授業科目を10単位以上開設している(新教育課程一部抜粋) ・連携先の実務家教員による授業・・・ゲーム理論Ⅰ、ゲーム演習Ⅰ、映像制作Ⅰ、3DCG制作Ⅰ、アニメ動画Ⅰ、アニメ制作Ⅰ、人体イラストⅠ、e-sportプロモーションⅠ等 ・企業演習・・・インターンシップ、企業研修等 ・キャリアプラン・・・キャリアデザイン、就職セミナー、就職指導・業界研究等を授業科目として開設しています。	3	・外国人留学生に対する日本社会理解促進に資する授業科目が適切に開設されており、認定実績も含め評価できます。 ・IT人材が全国レベルで38万人不足している中、社会・企業が必要とする人材・能力アップに取り組んでいる。
	2-2教育の実施 ①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	3	◆教育の実施 教育課程は、授業科目内容に応じ、講義、演習、実習など適切な授業形態で実施されており、適切な機材を備えた環境で実施されている。 また、学則及び試験規程の成績評価基準に基づき成績評価を行っています。	学則第10条2 試験の成績は授業科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格点とする。ただし、その各科目の評価については別に定める。 試験規程第11条1 各科目について出席率、授業態度、臨時及び定期試験の成績、レポート並びに課題の成績を総合的に勘案し、次項に定めるAからDの4段階評価とする。 2 A、B、Cを合格とし、Dを不合格とする。A・・・100～80点、B・・・79～70点、C・・・69～60点、D・・・59～0点 3 GPA制度による成績評価の場合は、「試験規程別表1GPA制度による評価」の通りとする。	3	・授業内容に応じた適切な授業形態が採用され、成績評価基準も明確であり、公正な教育実施がなされています。 ・目標値を定め、学生のモチベーション維持に努めている。「楽しいだけでは前に進めない」も念頭に学生に方向性を持たせている。
	2-2教育の実施 ②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時間数に占める割合を具体的に設定していること。 【注】職業実践家専門課程】	3	◆教育の実施 建学の理念や学校設立のコンセプトに基づいた、「産学連携教育システム」を実践しており、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成しています。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習の単位を具体的に設定しています。	「産学連携教育システム」は、即戦力としての専門知識・技術、資格修得、ビジネスマインド等の修得のための教育システムであり、教育課程に反映されています。 具体的な教育課程としては、企業プロジェクト課題ⅠA～企業プロジェクト課題ⅡBまでで在学中に数多くの企業課題に取り組むようになっており、大きな成果を上げることで業界からの評価も高く、全ての専門課程において「職業実践専門課程」の認定を受けています。	3	・企業等と連携した実習・演習が充実しており、実践的な職業教育として高く評価できます。 ・企業・チームの誰が何を期待して仕事を任せたのか。人の話を良く聴き理解した上で自分の意志をオープンブラスする人材を育成している。 ・毎回連携する企業の数やネームバリューがすごく学生もよろこぶと思います。プレゼンで見る成果もどれもすばらしく、お金をもらえるレベルの結果を出していると思います。
	2-3単位・卒業認定 学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	3	◆単位・卒業認定 学生便覧にて、学科・専攻ごとの教科目標として、養成目的、学年・学期の到達目標を明確するとともに、卒業及び課程修了の認定は、学則に基づき行っています。	学則第24条 校長は、第10条に定める授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議に基づき、課程修了の認定を行います。 2 校長は、所定の修業年限以上在籍し、課程を修了したと認めた者には卒業証書並びに高度専門士又は専門士称号授与書を授与する。としています。	3	・卒業認定方針、修了認定の基準及び手続が明確であり、適切に運用されていると判断します。 ・モチベーションの向上と合せて目に見える証書を作成し、目標として位置付けしており、育成の工夫が感じられる。
	2-4学修成果目標の達成状況 ①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む)についての目標を定め、その目的が達成できていること。	2	◆学習成果目標の達成状況 卒業認定方針を踏まえ、学則の教育課程において、学年別標準履修単位並びに、卒業に必要な履修単位を明確にしています。 また、学科専攻毎に、教科目標として養成目的・学年・学期到達目標及び就職分野及び職種を学生便覧に明示している。	クリエイティブコミュニケーション科(3年制)は、学年別標準履修単位を、1学年31単位、2学年31単位、3学年31単位とし、卒業要件として、共通基礎科目6単位以上、専門基礎科目10単位以上、専門応用科目31単位以上、総合科目9単位以上を履修することとし、卒業に必要な履修単位を93単位としています。 スーパークリエイター科(4年制)は、学年別標準履修単位を、1学年31単位、2学年31単位、3学年31単位、4学年31単位とし、卒業要件として、共通基礎科目6単位以上、専門基礎科目10単位以上、専門応用科目47単位以上、総合科目12単位以上を履修することとし、卒業に必要な履修単位を124単位としています。	3	・学科ごとの到達目標や卒業要件が明確です。今後は成果の可視化を一層進めることで更なる向上が期待されます。 ・全11ワールド中、6ワールドに於いて中途退学者ゼロを達成しており、全体では文科省データの半数以下の中退率を達成している。 ・自習時間や場所、機材といったものをもっと多く提供していただきたい。 ・学校側の評価が2になってますが、目標に達していないという事でしょうか？
	2-4学修成果目標の達成状況 ②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	2	◆学習成果目標の達成状況 学修成果は、目標達成の努力の結果であり、本校では第一専門職への就職100%、退学率0%を教育成果の最終目標としています。 ・就職率・・・第一専門職での就職希望者就職率100%を目標としており、担任とキャリアセンタースタッフで学生一人ひとりの就職状況を把握している。 また、就職ガイダンス、合同企業説明会(年2回開催)、就職出陣式、模擬面接等の支援を通して就職活動をバックアップしています。	学修成果である第一専門職への就職率は、就職希望者140名中137名の就職が決定しています。また、就職先としては、 【ゲーム・IT】 ・株式会社カプコン、株式会社コナミ - キャラクターモデラー、株式会社アクワイア、株式会社インティ・クリエイツ、株式会社アイエフネットほか 【CG・映像】 ・株式会社WACHAJACK・株式会社MAPPA 株式会社ENGICafe Groupほか 【デザイン・イラスト・漫画】 ・石ノ森萬画館 株式会社エムエヌシーシャインパートナーズ株式会社 業界企業のほか、フリーランスにて活躍中の学生も多数	2.5	・就職支援体制が整備され、高い就職実績につながっている点を評価します。今後も個別支援の継続を期待します。 ・2025年度には50もの企業プロジェクトに参加しており「空き家問題を解決する」ツールの開発等を含め各界に活躍の場を見出すと共に就職先の確保にも注力している。 ・企業数、業務内容、学生の理解も弱いが、学校側ももっとよく理解し、企業側との交流をはかってほしい。 ・充分な結果だと思います。 ・第一専門職への就職率とは、学校で専攻していた科の内容で就職できたということでしょうか？ ・100%の就職率は引き続き御支援よろしく願います。

3 学 生 の 受 入 れ 学 生 支 援	3-1学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理 ①入学者の受入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否決定していること。	3	◆入学者の受け入れ方針 宮城県専修学校各種学校連合会に加盟し、定められたルールに基づき募集活動を実施しており、アドミッションポリシーを明確にすることで、国内外より学生を受け入れています。 ◆入学選考基準 出願受付及び選考日を学生募集要項及びHPに明示し、定められた日程で実施しており、可否については「入学選考会議」において決定し、学校長が承認しています。	クリエイティブコミュニケーション科のアドミッションポリシー 1.将来の夢や目標を持っている人 2.学校の教育内容や方針を十分理解している人 3.好きな仕事を通じて、人に喜びや感動を与えたい人 4.「好きな事を仕事にしたい」という気持ちを持っている人 スーパークリエイター科のアドミッションポリシー 1.将来の夢や目標を明確に持ち好きなことを仕事にしたいという気持ちを持っている人 2.将来の目標・目的・職業観を明確に持ち、夢に向かって努力を惜しまない人 3.好きな仕事を通じて、人に喜びや感動を与えたい人	3	・入学者受入方針、選考基準、方法が明示されており、公正かつ適正な入学者選抜が実施されています。
	3-1学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理 ②学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【注】修学支援新制度機関要件の確認 【注】外国人キャリア形成促進プログラム】	3	◆入学定員 学生募集は、入学定員に基づき適正に行っています。	専門課程における収容定員充足率は、総定員740名に対して、在籍694名で定員充足率は93.8%です。	3	・入学定員に基づいた適切な学生受入れが行われており、定員管理は良好であると評価します。 ・7年前の開校時には500名程度だった入学者も2026年度には731名迄増加しているが入学後もレベルに応じたサポートを続け、入学時の熱意を継続させている。 ・すごい数字です。 ・子供が少なくなってきましたが維持して頂きたいです。応援しています。
	3-2自主的な学習の促進に対する支援 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること、学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	◆自主的な学習に対する支援 滋慶学園グループでは、キャリア教育とは、社会的に自立するために必要とされる技術、知識、態度、考え方を育み、求められる行動を習慣化させていく教育と考え、入学前・・・キャリア形成段階、在学中・・・キャリア設計段階、卒業後・・・キャリア開発段階と位置づけています。 また、授業科目は、シラバス(授業計画)に基づき行っています。	入学前教育(キャリア形成段階) 仕事に就くための職業観・勤労観を養い、入学前教育や導入教育を通して入学へ向けた学習の準備、心の準備や職業人教育への動機づけを行っています。 シラバス(授業計画)は、科目名・必修選択・授業形態・該当年次・担当教員・単位(時間)・開講区分・曜日・時限・教員の略歴・授業の学習内容・到達目標・評価方法と基準・授業計画・内容について記しています。 また、授業前に学生に説明し、本校ホームページにて公表しています。	3	・入学前教育、補習、シラバス活用等を通じて、学生の主体的な学びを支える体制が整っています。 ・教育内容の透明化によって広く明確に教育側と学生側の意志のマッチングが図られている。 ・「つたえる」だけにはなっていないだろうか。
	3-3多様な学生に対する支援 ①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。	3	◆多様な学生に対する支援 担任・副担任制でクラス運営を行っており、定期的に学生カウンセリングを行っています。 さらに、留学生支援として、JCIC滋慶国際交流COM(Jikei COM International Center)を設け、留学生の受入れ・在留資格手続き・生活支援・国際交流事業等を行っています。	入学前に、「入学後配慮ご相談シート」にて、個々の学生の状況(不安点・障がいの有無・疾患・服薬・希望配慮事項・カウンセリング希望の有無等)を事前に把握し、担任・副担任と共有しています。 また、合理的配慮希望者には、滋慶トータルサポートセンターと連携し、合理的配慮提案書の提案後に合理的配慮合意書を締結し支援を行っています。	3	・障がいのある学生、留学生、社会人経験者等に対する支援体制が整備され、丁寧な対応が行われています。 ・精神的な不調を抱える若者が多い現代だが、学生レベルに応じた細かいサポートを3段階で行っている。 ・入学時、進学時など定期的に行えると良いと思います。 ・様々な状況の子がいると思いますので、安心して通学できる支援をお願いします。
	3-3多様な学生に対する支援 ②特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本学生との交流の機会が確保されていること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	◆多様な学生に対する支援 留学生担当者を配置し、在籍管理等を実施しています。 また、クラス担任・副担任制により、進路(就職)指導も行っています。 本校の留学生は、日本人学生と同一クラスにおいて、同一の教育課程を受講しています。	令和8年3月31日付で外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定校として、クリエイティブコミュニケーション科(3年制)昼間Ⅰ部が認定されています。	3	・留学生の在籍管理、進路指導、日本人学生との交流機会の確保が適切に行われています。 ・外国人留学生を招き迎えている数少ない専門校として学内の国際化を願っている。
	3-4学生生活に関する支援 ①カウンセラーの配置、相談室の設備など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	3	◆カウンセラーの配置、相談室の設備 学内には悩み相談窓口として仙台スチューデントサービスセンター(通称:仙台SSC)を設置し、週3日公認心理士・臨床心理士・臨床発達心理士の有資格者を配置しています。	仙台スチューデントサービスセンター(仙台SSC)は、専門のカウンセラー(公認心理士、臨床心理士、臨床発達心理士)が学生やご家族のお話を聞きながら、困っていることについて一緒に考えたり、悩み事を整理するための相談室と位置付けています。	3	・有資格カウンセラーの配置や相談室の整備により、学生相談体制は非常に充実しています。 ・教育のみならず、多様な悩み事にも解決に向けた体制がとられている。
	3-4学生生活に関する支援 ②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	3	◆留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対して適切な対応を行っているます。 留年者、退学希望者に対しては、担任・副担任による定期的なカウンセリングを実施しています。 また、状況に応じて保護者とも情報を共有しながら対応を行っています。	カウンセリングは、学生便覧の「学生規程」及び「学生生活の手引き」に記載しており、担任・副担任が行っているが、状況に応じて学科長・教務部長・副校長も状況を共有しながら対応しています。 令和7年度の退学率は、2.9%と専門学校全国平均6.5%(令和6年度)を大幅に下回っています。	3	・留年者、退学希望者等に対する継続的な支援が行われており、退学率の低さにも成果が表れています。 ・中途退学者の少なさは、学生の個々に対するサポートの表れと思う。
	3-4学生生活に関する支援 ③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	◆学生生活に関する支援(学校保健安全法) 学校保健計画は、学校設立の2020年に策定し、毎年見直しを行っています。	健康診断を毎年実施し受診率は100%です。 また、二次検診受信者へは保護者宛の文書の発送並びに学生本人へ担任・副担任から受診指導を行っています。	3	・学校保健計画に基づく健康診断や受診指導が適切に実施されており、健康管理体制は良好です。 ・心身の健康は元より病気の早期発見等にも取り組んでいる。
	3-4学生生活に関する支援 ④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知し、運用していること。	3	◆学生生活に関する支援(学生の経済的側面に対する支援) 事務局会計課に相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また、教務部に奨学金担当者を設置しています。	事務局会計課に学費の分納・延納等に関する相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っています。 また、日本学生支援機構の奨学金貸与率が00.0%と高いため、奨学金窓口を設置しています。	3	・学費、奨学金等に関する相談支援体制が整備され、学生の経済的不安軽減に寄与しています。 ・保護者の経済的事情も含めて三者相談等も実施されている。
	3-4学生生活に関する支援 ⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知し、運用していること。	3	◆学生生活に関する支援(学生のキャリア支援、就職支援) 専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任・副担任との連携を取りながら、就職イベント(就職出陣式、合同企業説明会、キャリアセミナー、就職保護者説明会、)を開催し、就職の相談、斡旋、履歴書作成等の各種指導等の支援を行っています。。また、デビュー系では作品持込会等を開催とています。	就職は、入学時からの目標であるため専門部署のキャリアセンターを設置し、業界研修の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント、就職あっせんなど、収書に関するあらゆる支援を行っています。 また、求人情報が携帯電話でも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」を導入しています。	3	・キャリアセンターと担任等が連携し、就職支援体制が非常に充実している点を高く評価します。 ・業界の担当者とも連携し、求められる社会人・企業人の姿をイメージさせてゼロから動機付をしている。

4	教育 実 施 組 織 ・ 教 員	4-1教員の配置、募集、採用 ①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適切に運用していること。	3	◆教員の配置、募集、採用 本校の「建学の理念」(3つの教育理念)、教育目標を十分に理解し、専門性と人間性を兼ね備え、教員要件を満たした人材を採用しています。さらに、専門分野の業界で活躍する人材を教員として採用するために、学科長、教務部長で情報の蓄積をしています。	専修学校設置基準第18条の規定に従って採用しています。 1.専門課程(2年制)修了後関連業務に4年間従事した者 2.大学卒業後関連業務に2年間従事した者 3.高校の教諭経験が2年以上ある者。 4.修士の学位を有する者 5.その他同等以上の能力があると認められる者	2.8	・教員採用基準が明確であり、専門性と教育力を備えた人材確保に努めている点が評価できます。 ・学歴や経験だけを採用基準にしておらず、熱意やコミュニケーション能力も重視している事が伺える。
		4-1教員の配置、募集、採用 ②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時間数などを把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	3	◆教員の配置、募集、採用 授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的として、授業アンケートを年2回実施しており、学生の理解度や講師の状況等を正確に把握し、講師ヘフィードバックしています。 また、授業内容や教授方法についてはシラバス作成時に講師と協議を重ね、方向性を確認しています。	教員の年齢構成や授業時間数は把握しており、それぞれの専門性、教授力も年2回実施している授業アンケートで把握しております。	3	・教員の専門性や指導力を把握し、授業アンケート等を活用した改善が図られています。 ・学生にどの様に伝わったのか自ら検証して、学習効果と授業の質の向上に取り組んでいる。 ・学生のアンケート意見は重視して頂きたいです。以前は授業が全くつまらない先生がいる等の話を聞いたことがあります。(今は不満のある先生はいないそうです)
		4-2教員の組織編制等 ①学校の目的に応じた分野の区分けごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	3	◆教員組織の整備、業務分担、責任体制 教務部は、学校長、副校長、教務部長、学科長、教員、教務事務で組織しています。	教務部の組織体制の中で、業務分掌を明確にしており、責任体制も明確にしています。	2.8	・教員組織、業務分担、責任体制が明確であり、適切な教務運営が行われています。 ・学校長を中心に各パートが連携して、強固な体制を作っている。 ※先生については良くわからないので2にさせていただきます。
		4-2教員の組織編制等 ②教員間で連携、協力体制を構築していること。	3	◆教員の組織編制等 連携・協力体制 教務部長主催による教務会議を月2回開催、学科長会議を月2回開催し、情報を共有してます。	(教職員組織) 学則第17条に教職員組織を明示しています。 また、学校全体会議、教務会議及び学科長会議で情報を共有し、協力体制を構築しています。	2.8	・会議等を通じた情報共有と連携体制が確立されており、組織的な教育運営がなされています。 ・各パートが協力して問題の共有と解決に向けた話し合いを定期的に実施している。
		4-3教員の資質の向上 ①-1学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)等の取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っている。	3	◆教員の資質向上(FD等の取組等) JESC(一般社団法人滋慶教育科学研究所)によるFD(Faculte Development)研修、キャリア教育研修、DX推進研修を実施しており、教育部会ごとの勉強会も実施しています。	JESCによるFD研修は、教員の経験年数によりFDミクロレベル研修、FDミドルレベル研修、FDマクロレベル研修と段階的に実施されています。	2.8	・FD研修や自己啓発支援が体系的に実施されており、教員の資質向上に有効に機能しています。
		4-3教員の資質の向上 ①-2特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。 【注】職業実践専門課程】	3	◆教員の資質向上 (職業実践専門課程において企業と連携して組織的に行っている) 職業実践専門課程野の認定学科として クリエイティブコミュニケーション科(昼間Ⅰ部)は、令和4年3月25日 クリエイティブコミュニケーション科(昼間Ⅱ部)は、令和5年3月27日 スーパークリエイター科(昼間Ⅰ部)は、令和8年3月31日 スーパークリエイター科(昼間Ⅱ部)は、令和8年3月31日 が認定されています。	企業と連携している授業科目として、ゲーム理論Ⅰ、ゲーム演習Ⅰ、映像制作Ⅰ、3DCG政策Ⅰ、アニメ動画Ⅰ、アニメ制作Ⅰ、人体イラストⅠ、e-sports プロモーションⅠ、企業プロジェクト課題ⅠA～企業プロジェクト課題ⅡB等があります。	2.8	・企業等と連携した実践的な資質向上の取組が行われており、職業教育の質向上に寄与しています。
5	教育 環 境	4-3教員の資質の向上 ②教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して組織的に行っていること。 【注】職業実践専門課程】	3	◆教員の資質向上(指導力等の修得・向上) JESC(一般財団法人滋慶教育科学研究所)が主催する教員研修(新入職研修、FD研修、キャリア教育研修、DX推進研修、)や教育部会毎の勉強会を実施しています。	JESCによる研修は、教員の経験年数により段階的に実施されています。	2.8	・教員の授業力、指導力向上に向けた研修が継続的かつ組織的に実施されています。 ・4～5月の勉強会は多すぎませんか？講師としてはその場その時に打合せしたいことも多い時期ですので、担当がいないと次の週になってしまう。 ・研修は経験年数ではなく、その先生個人の能力に基づいて行って頂きたいです。長年やっているから良い先生とは限りません。
		5-1教育環境の整備 ①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	3	◆教育環境の整備(施設・設備、機械器具等) 教科目標を達成するために必要な教育環境(施設、設備、機材等)は整備されています。特にPCを使用する教室が多いため、事業計画に入れ替えの計画を立て、毎年見直しています。	施設・設備については、教育研究機器、管理用機器、校舍改装・修繕などを毎年事業計画により予算計上を行い、計画通りに更新しています。	3	・教育上必要な施設・設備・機器が整備され、計画的な更新も行われている点を評価します。 ・高性能PCを多数導入し、図書等の自習環境も充実している。 ・定期的に(数年ごととか)リマインダーとしての研修はあった方がよいと思います。
		5-1教育環境の整備 ②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。	3	◆教育環境の整備 (学習支援のための施設、休憩、食事のためのスペース) 教室は、自習用として常に開放しており、学生の休憩、食事のためのスペースとして、学生ラウンジを確保してます。 施設使用規定は学生便覧に明示しています。	施設使用規定により、実習室及び機材を貸し出しています。 ・貸出は、すべてにおいて授業を優先とします。 ・貸出期間は、原則月曜から土曜9:20～17:30	2.8	・自習スペースや学生ラウンジ等が整備され、学習及び学生生活を支える環境が整っています。 ・仙台駅まで徒歩圏内であり、図書館や文化施設も充実している。
		5-1教育環境の整備 ③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。	3	◆教育環境の整備(図書室の設置) 図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考書等を配架しています。 また、施設使用規定により1人2冊迄1週間の貸出期間を設けています、	施設利用規定により 図書室の開室時間:月曜～金曜 9:00～17:30 貸出冊数:1人につき2冊まで 貸出期間:1週間以内	2.8	・専門分野に必要な図書が配架され、学生が利用しやすい環境が整備されています。 ・専門書を多数貯蔵し、書籍に親しむ機会を設けている。
		5-2安全対策、防災組織 ①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	3	◆安全対策、防災組織 学校安全計画は、学校設立の2020年に策定し、毎年見直しを行っている。また、職場環境安全衛生委員を選任し、校舎を巡回し安全指導を行っています。	学校安全計画に基づき、定期的に安全対策に取り組んでいます。 また、令和7年度は教職員を対象としたAED研修を実施しました。 令和8年度は、宮城県若林警察署生活安全課の指導の下、不審者対策としてさすまた講習等を予定しています。	3	・学校安全計画に基づき、安全対策や研修が実施されており、適切な運用がなされています。 ・年間を通じて人と車の往来が頻繁な地区に於いてAEDの活用が期待できる人材を育成している。
		5-2安全対策、防災組織 ②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	3	◆安全対策、防災組織 防火管理責任者を選任し、防災・防火訓練を年2回春季・秋季に実施しています。 また、危機管理マニュアル、緊急対応マニュアルを整備しています。	令和7年5月16日及び11月6日に防災・防火訓練を実施しました。 また、緊急組織体制も整備しています。	3	・防火・防災体制、訓練、危機管理マニュアル等が整備され、適切に運営されています。 ・消防法に基づき、正しく点検報告を実施し、地域の防災に貢献。
		5-3施設・設備等の点検、改善等 ①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修などを適切に行っていること。	3	◆施設・設備等の点検、改善等 施設・設備等の日常点検及び定期点検は、校舎メンテナンス業者に委託し実施しています。また、補修が必要な場合は、即日対応できる体制も整備しております。	サポート企業のジケイ・スペース株式会社DUCEに、施設・整備等の点検を委託しています。	3	・施設・設備の日常点検及び定期点検、必要な補修が適切に実施されています。 ・清潔且つ整った設備であり、安全、快適な環境を維持している。
		5-3施設・設備等の点検、改善等 ②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。	3	◆施設・設備等の点検、改善等 教育環境(施設、設備、機材等)は整備されています。特にPCを使用する教室が多いため、事業計画にて入替の計画を立て、毎年見直しています。	施設、設備については、校舎改修、修繕、教育研究機器、管理用機器等について、毎年事業計画により予算計上を行い、計画通りに更新しています。	3	施設改修や設備更新が事業計画に基づき計画的に進められている点を評価します。 ・滋慶学園全体に通じる事だが校舎及び設備の優れている特徴は地域のイメージアップにも貢献している。

6 教育活動の基盤と改善・向上の取組	6-1中期事業計画と財務基盤 ①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置づけられていること。	3	◆中期事業計画と財務基盤 社会の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望を作成しています。毎年作成しているこの事業計画書が各校における運営の核となるものです。 また、事業計画は、法人理事会の決済を受け承認を得ることになっています。運営方針や意思決定システム、組織、部署における目標や取組、職務分掌、各種会議及び研修等が明記されています。	各校における事業計画は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底しています。	3	・中長期計画の中に教育目標実現のための具体策が位置付けられ、方向性が明確に示されています。 ・社会全体の変化に敏感に反応しグループが連携して組織の意地に取り組んでいる。
	6-1中期事業計画と財務基盤 ②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	3	◆中期事業計画と財務基盤 財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つであり、その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであり、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成しています。 また、事業計画書において、5ヶ年計画の収支予算を作成しています。 なお、ホームページ上にて、財務情報を公開しています。	予算を正確かつ実現可能なものにするための要素は2つあります。 ①正確かつ実現可能な予算の作成 短期・長期の事業計画を作成し、短期的視野と中・長期的視野の2つの観点から予算編成しています。 短期的予算編成は、当該年度の実績を基に次年度に予定している業務計画を加味して実施しています。 中・長期的予算編成は、大規模な計画を視野に入れたうえで、業界の動向に注視しながら予算編成しています。 また、正確かつ実現可能な予算を作成するためには、短期的予算においては、期中に修正予算を組み、中・長期的予算においては、毎年見直し子としています。 ②体制づくり 事業計画・予算は、学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正後最終的に理事会・評議員会が承認することとしています。 さらに、四半期ごとに実績対比を基に、学校責任者と学園本部が協議し、修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得ています。	3	・教育活動を安定的に遂行するための財務基盤が確立され、予算管理も適切に行われています。 ・収支のバランスをとりつつ学校経営の安定化と納入学費と就職後に得られる金銭的リターンにの学生にとってのメリットも考えられている。 ・PC系の値上がりが年単位で予想を上回ると思いますので学費にあまり影響が出ないことを祈ります。
	6-2学校運営 ①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む)	3	◆学校運営 専修学校設置基準及び関係法規に従い適切な運営を行っており、滋慶学園グループ、COMグループの運営方針を基に、学校の運営方針が決定されます。この運営方針が全教職員に周知徹底されることが重要であり、そのため、研修、会議を実施し、学校運営方針が実現されるようにしています。	学校運営組織は、事業計画の実行計画として、組織図、心因構成、職務分掌かが定められており、学校運営に関する規定は、就業規則・諸規定集としてまとめられています。	3	・学校運営の組織体制、規程、意思決定の仕組みが整備され、適切な運営が行われています。 ・合同入学式に代表される様にスケール感をもって、全体でグループ経営を行っている。
	6-3学校評価の実施と改善活動 ①-1学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映する等、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。	3	◆学校評価の実施と改善活動 学校関係者評価委員の委員は、卒業生、保護者、高等学校関係者(校長)、地域代表、専門分野企業や団体の有識者により構成されています。	自己点検・自己評価を基に、学校関係者評価委員会を、年間1回、教育課程編成委員会を年間2回開催し、委員の様々な意見を学校運営の改善等に役立てています。	3	・学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会を通じて、外部意見を学校改善に活用している点は評価できます。 ・コンプライアンスに則り、学校評価を各方面から受けて維持、向上、改善に努めている。
	6-3学校評価の実施と改善活動 ①-2特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	3	◆学校評価の実施と改善活動 教育課程編成委員会は年間2回開催しています。 令和7年度は、令和7年6月21日、令和8年2月7日に開催しています。	学校ホームページの情報公開において、職業実践専門課程のページを作成し、学校の理念、概要、委員会構成名簿、委員会開催日、内容を公開しています。	3	・教育課程編成委員会が適切に開催され、職業実践専門課程としての要件を十分満たしています。 ・毎年、特記事項に注目している。評価委員会でのプレゼンと業界関係者からの情報も興味深い。
	6-3学校評価の実施と改善活動 ②学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公開していること。	3	◆学校評価の実施と改善活動 学校関係者評価委員会は年間1回開催しています。 令和7年度は、令和7年6月21日に開催いたしました。	自己点検・自己評価を基に、学校関係者評価委員会を、年間1回、教育課程編成委員会を年間2回開催し、委員の様々な意見を学校運営の改善等に役立てています。 なお、学校関係者評価委員会の評価結果資料は、ホームページ上で公開しています。	3	・学校評価の結果及び改善状況が公表されており、説明責任が十分に果たされています。 ・学校全体の取り組みをガラス貼りにした上で各視点から検証している。
	6-3学校評価の実施と改善活動 ③学校評価の結果に基づく改善への取組みを組織的かつ継続的に行っていること。	3	◆学校評価の実施と改善活動 学校関係者評価委員会での意見については、運営会議等で審議し、改善方法を決定しています。	自己点検・自己評価を基に、学校関係者評価委員会を、年間1回、教育課程編成委員会を年間2回開催し、委員の様々な意見を学校運営の改善等に役立てています。 なお、学校関係者評価委員会の評価結果資料は、ホームページ上で公開しています。	3	・学校評価結果を踏まえた改善活動が継続的かつ組織的に行われている点を評価します。 ・卒業生及び保護者の評価も公表している事に自信が伺える。
	6-4社会からの理解と情報の公開 ①当該専修学校の教育活動、学習成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	3	◆社会からの理解と情報の公開 教育活動等の公開は、教育内容の他、学校情報をホームページに公開し、学校の現状、特徴を周知しています。	学校に関する情報(情報公開)として、学校の概要・目標・計画、各学科の教育、授業計画(シラバス)、教職員、組織図、キャリア教区・実践的職業教育、教育活動・教育環境、学生の生活支援、学生納付金・修学支援、法人の財務、学校評価、等をホームページに公開しています。	3	・教育活動、学修成果、学校運営等に関する情報が積極的に公開されており、透明性が高いと考えます。 ・ネット上にも各種情報を公開する他、学園祭でも保護者や入学希望者と話し合いのブースを設けている。 ・学生の成果を世に伝えることにはもっと力を入れて欲しい。
	6-4社会からの理解と情報の公開 ②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得よう取組んでいること。	3	◆社会からの理解と情報の公開 教育目的・目標の達成状況や活動状況について、学校情報をホームページに公開し亭ます。	就職状況、企業プロジェクト、独自の英語カリキュラム、。業界特別ゼミ、特別講義、W目じゃカリキュラム等をホームページに公開しています。	3	・教育目的や活動状況について社会全体への発信が積極的に行われ、理解促進につながっています。 ・綿密な組織運営と人材育成に注力しており、HPやTVCMでも情報を発信している。